



# 2018 Annual Report

## 2018年 年次報告書

国際環境NGOグリーンピース・ジャパンの取り組み



# Message

2018年を振り返って



© Chihiro Hashimoto / Greenpeace

2018年12月、グリーンピース・ジャパン事務局長に就任したサム・アネスリーです。皆様からのあたたかいご支援が励みとなり、昨年も多くの環境問題に取り組み、成果を出すことができました。

世相を表す漢字に選ばれた「災」が物語るように、2018年は記録的な猛暑や豪雨に見舞われ、全国で多くの尊い命や平穏な暮らしが奪われました。穏やかな生活は当たり前ではなく、気候変動の脅威から守らなければいけないと実感しました。

エネルギー問題では、気候変動の原因である二酸化炭素（CO2）を大量に排出する石炭火力発電を止めるキャンペーンを2018年に開始しました。グリーンピースの海外事務所や他のNGOと協力し、機関投資家や金融機関に石炭火力発電への投融資をやめるよう働きかけを行いました。金融機関の石炭投融資方針の発表や石炭火力発電計画の中止が相次ぎ、良い変化がみられました。

豊かな海を守る活動では、絶滅が心配されるウナギの流通の間に迫る調査を実施。大手小売5社の回答から、少なくとも年間2.7トンの蒲焼きが廃棄されている事実が発覚し、調査結果は多くの新聞やテレビなどでも報道されました。

さらに、年間多くの海の生きものが漁業の巻き添えで犠牲となる「混獲」の問題を、アートを通じて伝える試みに挑戦しました。月夜の海を舞台に、漁網に翻弄される命を表現する映像作品が誕生し、新規の雑誌やオンラインメディアに掲載されました。

食と農業の活動では、国産オーガニック商品の拡充を求める署名を大手小売7社に提出し、消費者も変化を実感するほどのオーガニック市場拡大を後押ししました。ネオニコチノイド系農薬を使わないお米作りを応援する署名を、農家と養蜂家と共に農林水産省に提出し、農薬散布を助長するお米の着色粒規定の見直しを求めました。

グローバルな活動では、世界のグリーンピースとの連携で、大きな成果がありました。南極に海洋保護区の設立を目指し、全世界で展開したキャンペーンには200万人以上が参加し、2019年以降、国連で議論される公海での保護区ネットワークの構築に向け、土台を固めることができました。

また、オランウータンが暮らすインドネシアの熱帯雨林を保護する活動では、世界から集まった130万人の声で、最大手のパーム油企業を動かしました。森林破壊撲滅のための具体的な行動計画が発表され、グリーンピー

スは引き続きこの動きを見守っていきます。

「平成」が終わり、新しい時代を迎えます。気候変動が深刻化し、環境問題は大きすぎて個人では解決できないと感じるかも知れません。けれど、マイボトルを持ち歩くことから署名に参加することまで、すべてが意味ある行動です。その積み重ねがよりいい社会、よりいい世界につながると確信しています。

「環境を守りましょう」とただ唱えるのではなく、具体的にできることを発信し、あらゆる人々に自分が行動する価値を実感してもらいたい。行動する人の輪を広げていくのが、グリーンピースの役割だと考えています。

これからもぜひ、グリーンピースと一緒に行動してください。

グリーンピース・ジャパン 事務局長  
サム・アネスリー



© Dermot Killoran / Greenpeace

# Climate & Energy

自然エネルギー100%の社会を目指して



グリーンピースは、気候変動を悪化させる石炭火力発電や、原発の再稼働ではなく、省エネと持続可能な自然エネルギーへの転換を日本で進めるために、活動を続けていきます。

© Masaya Noda / Greenpeace

## サムスン電子が自然エネ100%に

日本事務所も含めたグリーンピースの世界中での働きかけが実り、6月、IT企業最大手の1つサムスン電子が、2020年までに世界の約半数の拠点で自然エネルギー100%を目指す約束しました。



© Chong Kok Yew / Greenpeace

した。主要株主である海外機関投資家への情報提供と並行して、3メガバンクに、石炭への融資中止を求める対話を続けています。夏には、3メガバンクを含む日本の金融機関が相次いで石炭事業投融資方針を発表。良い兆候が見られました。

## 原発事故の現状を伝える

2017年に続き、日本政府の東京電力福島第一原発事故対応について国連機関への情報提供を実施しました。3月には、福島県から母子避難中の女性と国連人権理事会で放射能汚染の現状と被害者の実情について話し、NHKでも報道されました。また、2017年秋に実施した福島県での放射能調査結果を3月に発表。東電が再稼働を目指す世界最大級の柏崎刈羽原発の地元新潟県でも報告会を開催しました。9月には福島県での放射能調査のために、クラウドファンディングで寄付を募り、10月に調査を実施しました。原発事故の現状を伝え、これからも原発を止める活動を続けます。



© Chong Kok Yew / Greenpeace

## 石炭火力発電をとめよう

日本では電源部門、特に石炭火力発電が最もCO2を排出します。グリーンピースは2018年から日本の脱石炭を加速させる活動を開始しました。日本は、約30基の石炭火力発電の新設計画や海外への石炭技術輸出を進め、脱石炭を目指す世界に遅れをとっています。日本の3メガバンクの石炭火力発電への融資額も世界トップで、グリーンピースの国際チームと協力して、金融機関への脱石炭の働きかけを行いました。また、他団体と協力し、千葉県袖ヶ浦市の最大級の石炭火力事業計画の中止を目指した活動では、事業者との対話、地元住民への意識調査、署名活動などを行いました。

## 石炭融資リスクについて銀行と対話

4月に、3メガバンクの気候変動リスクを示す報告書、12月には、日本企業の石炭技術輸出に関して、インドネシアでの石炭火力発電事業リスクを示す報告書を発表しま

### ■ 主な発行物 / 報告書

- 1月 『でんきのほんと でんきのこれから 2017 改訂版』
- 3月 『原発事故の写像—浪江町と飯館村における放射線調査』
- 4月 『潮流に逆境する日本の銀行：石炭投資と気候変動』
- 7月 『第5次エネルギー基本計画(案)についての評価と提言』
- 8月 『全国1000人に対する異常気象と気候変動、石炭火力発電に関する意識調査』
- 11月 『今が最後のチャンス IPCC 特別報告書「1.5°Cの地球温暖化」の主な論点』
- 12月 『不確実で有害 インドネシアにおける日本の石炭火力発電事業への投資』

# Plastics

海がごみでいっぱいになる前に



普段何気なく使うプラスチック。その利便性とは裏腹に環境への負荷が明らかになってきました。私たち消費者だけでなく、製造する企業、政策を担う政府が一体となって使い捨て社会から脱却し、より持続可能な社会を目指す必要があります。

© Greenpeace

## 『プラスチックフリーガイド』発表

使い捨てプラスチックなしの「プラスチックフリー社会」を目指すために、なにができるだろう。そんな想いに答えるため、問題を身近な人々に伝え、自分の住む街をプラスチックフリーにするための方法をガイドとして発行しました。長年、使い捨てプラスチックに依存してきた私たちの生活に必要なのは、循環型社会にシフトしていくことです。一人ひとりの行動の変化が、大きな力になります。



## これからのカフェのあり方を考える『プラスチックフリーカフェ』

中目黒のレインボーボードランデブーカフェとコラボした勉強会を開催。プラスチックによる海洋汚染問題の実態を伝え、プラスチックフリーを実践したいというカフェオーナーの想いを後押しするため、ワークショップ形式でこれからのカフェのあり方を語り合いました。空間をつくるカフェによるイニシアチブは、消費者の意識を変えることにつながりました。



© Greenpeace

## 減プラスチック共同提言書、政府へ提出

グリーンピースも参加する環境NGO15団体で構成する「減プラスチック社会を実現するNGOネットワーク」

は、政府のプラスチック資源循環戦略に関する共同提言書を、与党と環境省に提出しました。プラスチックごみの輸出と焼却を前提にするのではなく、まずはごみをリデュース（削減）し、国内の処理能力を高める必要性や、東京五輪・G20大阪サミットを控え、日本政府や企業に国際社会を先導する行動と勇気が必要と、前向きなメッセージを届けました。

## プラスチックフリーの音楽イベント

11月、2人のミュージシャンが、街中や河原でボランティアが集めたプラスチックを、イベントスペースで楽器に変身させました。



© Greenpeace

## ■ 主な発行物 / 報告書

- 6月 『使い捨てプラスチックと海洋汚染——その問題点と解決に向けた世界の動き』
- 7月 『BOTTLING IT 海のプラスチック汚染に対応できていない、大手清涼飲料メーカーの失敗』
- 8月 『プラスチックフリーガイド』
- 10月 『減プラスチック社会提言書』(環境NGO15団体と共同作成)



© Greenpeace

## 使い捨て社会からの脱却と新しいライフスタイルのありかた

石原謙治(プラスチック担当)

プラスチックから代替品に切り替えるのではなく、使い捨て社会自体を見直す時がきています。マイバックやマイボトルなど、物を大切に繰り返し使う文化を広めることでごみを減らし、環境にも優しい生活が送れます。それはきっと、私たちの生活も豊かにするでしょう。カギを握る力は、一人ひとりにあります。

# Global

## オランウータンの森を守る

グリーンピースのグローバルキャンペーンで集まった130万人の声を受けて、世界最大のパーム油企業が、森林破壊撲滅のための行動計画を約束しました。森に暮らすオランウータンなどの貴重な野生動物を守りたいと願う人々の気持ちが、大企業を動かしました。



© Bjorn Vaugh / BOSF / Greenpeace

### 熱帯雨林の極楽鳥が世界で舞う

グリーンピースの2年間にわたる調査の結果、チョコレートやシャンプーなどに使われるパーム油を作るため、過去3年間で、シンガポールの面積の2倍もの熱帯雨林が伐採されたことが明らかになりました。



9月にパーム油を使用するブランドに対し、グローバルキャンペーンを開始しました。熱帯雨林にすむ極楽鳥を題材に、世界20カ国以上でアーティストが筆をとり壁画を作成。日本からはアーティストの鈴木掌さんが参加し、色鮮やかな極楽鳥が東京へ舞い降りました。

### 世界最大のパーム油企業が森林破壊撲滅を約束

世界の主要な食品・化粧品ブランドのほとんどにパーム油を供給する、ウィルマー・インターナショナルは、9月に開始したグリーンピースのキャンペーン



を受けて、12月にはパーム油の供給元を特定し監視するという具体的な行動計画を発表しました。同社が約束を果たし、2019年末までに衛星を使ってすべてのパーム油供給企業を監視することで、森林破壊業者が逃れることはほぼ不可能となり、森林保護の革新的な解決策となります。

### ベッキーさん、動画ナレーションに協力



この動きを後押しするように、タレントのベッキーさんは12月、パーム油が抱える環境問題を伝える動画『ランタンの物語』のナレーションに協力してくれました。プラスチックをはじめ、環境問題に意識を向けてきたというベッキーさんは、この動画に出会うまでパーム油が抱える問題は知らなかったと言います。「かわいいアニメーションのなかに、強いメッセージが詰まっています！これが何かのきっかけになってくれたら良いと思います」と話してくれました。



「声が社会を変える」ことが  
証明された年

林恵美 (パブリックエンゲージメント・マネージャー)

© Chihito Hashimoto / Greenpeace

世界130万人のみなさまの署名や、枠を超えて力を貸してくれたアーティスト達の力なくしては、今回のような大きな前進はありませんでした。一人ひとりの声は小さくても、力を合わせれば社会も変えられると、改めてサポーターのみなさまに教えていただきました。

# Food for Life

人、生きもの、自然、に優しい農業

美しい地球が私たちに与えてくれる自然の恵みを守るためには、有機農業や自然農法など、生態系農業ができる環境とそれを支える制度が必要です。実現するのは、一人ひとりの力。グリーンピースと一緒に、環境に優しい農業のあり方を進めていきましょう。



© Kengo Yoda / Greenpeace

## オーガニック市場拡大を後押し

「国産オーガニックの野菜やお米を全店舗に置いてください」という9,254筆の署名を、2月から4月にかけて、大手スーパーイオンやイトーヨーカドーなど7社に提出しました。中でもイオンでは、50%の店舗でオーガニックコーナーが設置されるなど、今までの活動を通して、消費者もオーガニック売り場拡大を実感するまでの変化が見られました。

## ミツバチを守るため、署名14,630筆を農林水産省に提出

6月には、安全で生態系にやさしいお米作りを応援したいという声を届けるために、ミツバチに有害なネオニコチノイド系農薬の使用禁止と、お米への農薬散布を強いる構造を作っている農産物検査法の米の着色粒規程の見直しを求める賛同署名を農水省に提出しました。本当は農薬を使いたくないという農家や養蜂家とともに消費者の声を政府に届け、一緒に農家を応援しながらネオニコチノイド系農薬を禁止する体制作りを働きかけました。



© Greenpeace

## ワークショップを通して仲間作り

生態系農業の重要性を伝えるには、様々な立場の人が一緒に語り合うことが大切です。1月にオーガニックを身近にする方法を、消費者や農家などが一緒に話し合う会を開催しました。12月にはネオニコチノイドフリーを求める仲間を増やすため、生協とともに、対象者に合わせた言葉選びや、具体的な計画を作るストーリーテリング・ワークショップを実施し、持続可能な食と農に向かって、一緒に活動する方法を学び合いました。



© Kengo Yoda / Greenpeace

### ■ 主な発行物 / 報告書

- 5月 『有機農産物を身近にするために ～過去2年で消費者の意識と小売店の取り扱い方針はどう変化したか～』
- 6月 『ネオニコチノイドフリーを可能にする生協の取り組み ―斑点米に関する生協アンケート調査でわかったこと』



© Chihiro Hashimoto / Greenpeace

環境に優しい食と農をみなさんと一緒に  
関根彩子(食と農業担当)

農業が環境に与える影響はどんどん深刻になっています。有機農家とつながる、オーガニックを選ぶ、ベランダや家庭菜園で作物を育てるなど、生態系と共存する食と農への一歩を踏み出しましょう。今日あなたが何を選んで食べるか、その行動によって世界と未来の環境にインパクトを起こすことができます。

# Oceans

豊かな海を守る

豊かな海を守るためには、海の生態系に負担をかける大量販売・大量消費を見直す必要があります。魚の中でも特に絶滅が心配されるニホンウナギが、保護されるどころか大量に廃棄されている事実を明るみに出し、その問題は国内で広く知られることになりました。



© Hidenori Tanaka / Greenpeace

## ウナギ流通の闇に迫る

大手小売業18社が販売するウナギを対象にした調査を実施。DNA検査の結果、販売するウナギの種を正しく把握していないケースが明らかになりました。また、5社のアンケート結果から、絶滅危惧種であるニホンウナギの蒲焼きが、2017年販売実績で少なくとも約2,730kg（1匹200g換算で約13,650匹）廃棄されていた事実が判明しました。6月に公表した調査結果は、夏の土用の丑の日を前に、新聞やテレビなど全国で大きく報道されました。

## 環境問題×アート

環境問題をアートを通じて伝える新たな試みに挑戦。年間30万羽のウミドリや30万頭のウミガメが漁業の巻き添えで犠牲となる「混獲（こんかく）」問題について、使用済みの漁網で作られたドレスをまとったダンサーが月夜の海を舞台に漁網に翻弄される命を表現しました。その



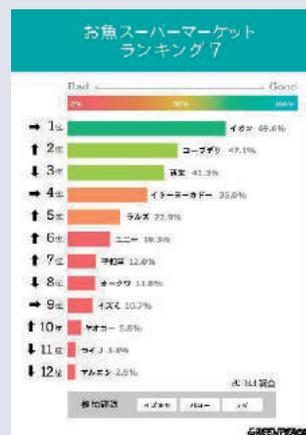
© Marco Care / Greenpeace

様子をおさめた映像作品は、アート系雑誌等に掲載されました。映像をご覧になるには、こちらのQRコードを読取またはYoutubeで「リサイクル漁網」と検索ください。



## お魚スーパーマーケットランキング7

最終回となる国内大手のスーパー・生協15社の調査を実施。持続可能な魚介類の調達の方針となる調達方針を策定・公開しているのは、イオン、イトーヨーカドー、コープデリの3社のみで、前回の調査結果に比べて大きな進展はありませんでした。スーパーには、表面的に解釈された「持続可能」な調達ではなく、海の生態系と労働者を傷つけないことを必要最低条件とする思い切った決断が必要だといえます。



## ■ 主な発行物 / 報告書

- 1月 『ウナギの消費に関する意識調査』
- 3月 『お魚スーパーマーケットランキング7』
- 6月 『不透明なウナギ調達の実態——大手小売業のウナギ加工品(蒲焼き)の調達に関する調査』  
『今さら聞きたくても聞けないウナギ問題』
- 7月 『海上の悲劇——台湾の遠洋漁船での人権侵害』

# Bearing Witness

環境破壊の現場から事実を伝える



© Kosaku Hamada / Greenpeace

## 油漂着の現場を確かめに、奄美大島へ

1月初めに東シナ海で石油タンカーの沈没事故が発生し、奄美大島などに油が漂着しました。グリーンピースは事故発生当初から、油流出による海洋生態系への



© Kosaku Hamada / Greenpeace

影響を指摘。2月には、油の状況確認と住民の方への聞き取りを行うため、奄美大島へ調査に行きました。「環境破壊の現場をこの目で確かめ、その事実を国内外へ発信する」、グリーンピースの基本的な活動のひとつである「ベアリングウィットネス」を実施し、油流出事故を防ぐためにも化石燃料に頼った暮らしから、自然エネルギーを中心にした暮らしへの転換を呼びかけました。



© Paul Hilton / Greenpeace

南極のアゴヒモペンギン

## 世界最大のサンクチュアリを、南極に

気候変動や漁業の影響を受けやすい南極の野生動物を守るため、地球で一番大きな海洋保護区を作る国際キャンペーンを1月に開始しました。潜水艦で南極海底を探索し、脆弱な生態系が広がっている事実を発見。さらに南極に広がる生命の美しさと、保護の必要性を世界中に訴えました。10月には賛同者が200万人に到達し、日本の水産庁へも署名を提出しました。結果は、3カ国の反対により南極海保護区の設立は叶わなかったものの、日本を含む多数の加盟国が南極海保護区に賛成し、2019年に続く海洋保護ネットワーク議論の土台を築きました。



© Christian Aslund / Greenpeace

潜水艦で南極海底を探索



© Greenpeace

水産庁へ署名提出



© Kosaku Hamada / Greenpeace

自然とともにある暮らしを守りたい  
土屋亜紀子 (広報担当)

油汚染の現場に立会い、石油に頼って暮らすことの責任を痛感し、自然エネルギー転換への想いを新たにしました。受け継がれる古の知恵や自然とともにある島の暮らしに触れ、守りたい暮らしとは何なのか、その具体像が見えてくる貴重な体験となりました。

# Volunteers

## ボランティア & インターン活動



アップサイクルワークショップの様子（東京、青山）

### お互いを尊重し 未来にチャレンジ

知花 久樹  
インターン



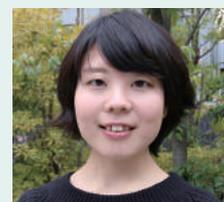
グリーンピースが実際にどんな活動をしているかを知るため、インターンに参加しました。2カ月を通して気づいたのは、分野の垣根を越えて誰もが参加し活躍でき、チャレンジに溢れている環境があることでした。

決して偏った思想を持った環境活動家だけの団体ではなく、国籍も文化も異なり、様々な経験をもつ人々が互いを尊重しながら働き、環境・社会問題の解決に向けチャレンジし続けています。

グリーンピースに対する疑問や未来に向けてどう行動していくのか、あなたなりの答えを探してみませんか？西新宿にひっそりと佇む事務所の小さな扉を開けた時、そこには大きな世界が待っています。

### ユースボランティアの輪、 さらに広がる & つながる

儀同 千弥  
パブリックエンゲージメント ユースエンゲージメント  
コーディネーター



2017年から若い世代のボランティアチームも盛り上がり、アップサイクルワークショップを開催したり、有名アーティストが参加する大規模なゴミ拾いも実施できました。

2018年10月からスタートした月に1回開催されるボランティアミーティングでは、様々な年代・バックグラウンドのメンバーからテーマごとに多様な意見が飛び交い、毎回クリエイティブな雰囲気です。

今年からは、プラスチックフリーな大学を作るプロジェクトを大学生メンバーと立ち上げ、現在企画中です。環境問題に関心がある大学生や社会人同士が、どんどんつながってきています！みなさんもこのムーブメントに参加しませんか？



歌舞伎町でのゴミ拾い



グリーンピース事務所でのボランティアミーティング



ボランティアによるゼロウェイスト勉強会

# Key Figures

数字でみる一年



© Jeremie Souteyrat / Greenpeace



© Greenpeace / Tim Aubry



© Christian Åslund / Greenpeace



© Justin Hofman / Greenpeace



© Dhemas Reviyanto / Greenpeace

## 数字でみる一年 Key Figures

サポーター数  
**7,228人**

Twitterフォロワー  
**24,510人**

グリーンピースの活動を  
直接伝えた人数  
**12,634人**

Instagramフォロワー  
**4,107人**

ボランティア登録者数  
**704人**

メールマガジンの購読者数  
**105,764人**

グリーンピース・ジャパンの  
ウェブサイト総閲覧回数  
**1,714,593回**

新聞、テレビ、雑誌等で  
グリーンピースの活動が  
紹介された件数  
**1,933件**

Facebookフォロワー  
**148,789人**



© Greenpeace

# Finance

## 2018年度 会計報告

### 2018年度財務報告

グリーンピース・ジャパンの2018年度（1月～12月）における財務報告書は、国際会計基準（IFRS）に準拠して作成され、RSM清和監査法人により会計監査を受けたものです。2018年度は昨年に引き続き、本部であるグリーンピース・インターナショナルに加え、ドイツ、フランス、ベルギー等の海外支部、および個人基金等からも人的・資金的な支援を得て、エネルギー分野、生態系農業への転換を呼びかける食と農業分野、海洋生態系分野、プラスチック問題などに精力的に取り組みました。

継続寄付で支えてくださるサポーターが7,228人になり、10万人の方がメールマガジンを購読し、約18万人の方がソーシャルメディアで活動をフォローしてくださるなど、2018年もグリーンピース・ジャパンの環境保護活動をさらに広げることができた1年でした。今年度、グリーンピース・ジャパンの収入と支出は前年度までと同様の規模となり、調査・公表や、企業や政府への働きかけ、メディアやサポーターのみなさまをはじめとした多くの方への情報提供と協働を行うことができました。私どもの活動を支えてくださった多くの皆様に心より感謝申し上げます。

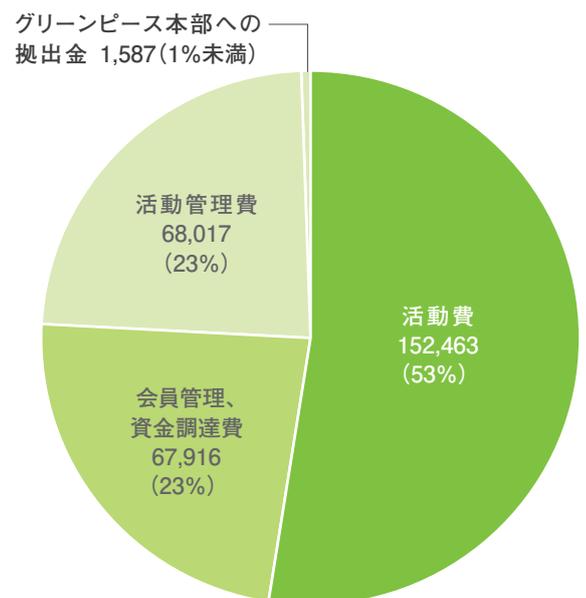
### 収支計算書（自2018年1月1日 至2018年12月31日） 単位:千円

収入	
寄付収入	146,739
グリーンピース本部からの助成金	91,968
グリーンピース支部からの助成金	17,680
財団からの助成金	44,265
その他収入	250
	<u>300,901</u>
活動費用及び活動支出	
活動費	-152,463
会員管理、資金調達	-67,916
活動管理費	-68,017
グリーンピース本部への拠出金	-1,587
その他（物販費など）	0
	<u>-289,983</u>
<b>活動収支</b>	<b>10,918</b>
活動外収入	
受取利息	1
雑収入	542
	<u>543</u>
活動外費用及び支出	
有価証券売却損	-428
	<u>-428</u>
税引前収支	11,033
事業税	-70
	<u>10,963</u>

### 貸借対照表（2018年12月31日現在） 単位:千円

資産	
流動資産	143,436
固定資産	3,341
有形固定資産	0
無形固定資産	2,022
投資有価証券	0
その他資産	1,318
<b>資産合計</b>	<b>146,777</b>
負債	
流動負債	28,862
固定負債	0
<b>負債合計</b>	<b>28,862</b>
正味財産	
<b>正味財産合計</b>	<b>117,915</b>
<b>負債及び正味財産合計</b>	<b>146,777</b>

### 2018年 活動費・管理費の内訳 単位:千円



## グリーンピース・ジャパン 概要

【名称】 一般社団法人 グリーンピース・ジャパン

【所在地】 〒160-0023 東京都新宿区西新宿 8-13-11 NFビル2F

【設立年月】 1989年4月

【代表者】 代表理事／青木陽子、寺中誠

【事業対象分野】 地球環境保護（気候変動/エネルギー／原子力問題、海洋生態系保護、農業問題、有害物質問題、森林問題等）

【活動対象範囲】 全世界

【組織の目的】 地球規模の環境破壊を止めること

【具体的な活動手法】 ●環境破壊の実態を科学的に調査・分析し公表 ●マスメディア、市民メディア、会員への情報提供  
●環境破壊を止めるための行動の呼び掛け ●環境破壊の現場に行き、抗議活動  
●環境問題を解決に導くための代替案の提示 ●政府・企業などへの提案・要請  
●国際条約の交渉過程を監視、提言

【方針】 非暴力行動・政治的独立・財政的独立

【会員】 約7,228人(国内)、約300万人(世界全体) ※2018年12月時点

【事務局】 国内有給職員 37名（うち、時間給制職員14名）

【本部所在地】 オランダ・アムステルダム(日本を含む世界55以上の国と地域に事務所。有給職員約2,400名)

【ホームページ】 [www.greenpeace.org/japan](http://www.greenpeace.org/japan)

【SNS】 Twitter: @GreenpeaceJP Facebook: グリーンピース・ジャパン Instagram: greenpeacejp

## 世界に広がるグリーンピース



●グリーンピース・インターナショナル(本部 オランダ・アムステルダム)  
リーガル(法律)ユニット(ベルギー・ブリュッセル)

●グリーンピース・オランダ  
●グリーンピース・ベルギー  
●グリーンピース・ルクセンブルグ  
●グリーンピースUK  
●グリーンピース・フランス  
●グリーンピース・ドイツ  
●グリーンピース・スイス

●グリーンピース・北欧  
デンマーク／ノルウェー  
フィンランド／スウェーデン  
●グリーンピース・ギリシャ  
●グリーンピース・イタリア  
●グリーンピース・スペイン  
●グリーンピース・チェコ  
●グリーンピース・ロシア

●グリーンピース・中欧／東欧  
オーストリア／ブルガリア／クロアチア  
ハンガリー／ポーランド／ルーマニア  
スロヴァキア／スロヴェニア

●グリーンピース・地中海  
イスラエル／レバノン／トルコ

●グリーンピース・アフリカ

●グリーンピース・メキシコ  
●グリーンピース・ブラジル  
●グリーンピース・アンディーン  
アルゼンチン／チリ

●グリーンピースUSA  
●グリーンピース・カナダ

●グリーンピース・東南アジア  
インドネシア／フィリピン／タイ  
●グリーンピース・インド

●グリーンピース・ジャパン  
●グリーンピース・東アジア  
北京／香港／台北／ソウル

●グリーンピース・オーストラリア・パシフィック  
オーストラリア／フィジー  
バブア・ニューギニア／ソロモン諸島  
●グリーンピース・ニュージーランド

## ■ あなたの思いを力に活動しています

独立・中立の立場から環境問題の解決を目指すグリーンピースの活動は、この報告書に掲載された成果を含めてすべて、地球の未来をまもりたいと願う個人の皆さまのご支援のみに支えられています。心より感謝申し上げます。誰もが安心して暮らせる緑豊かで平和な社会を、あなたのご寄付で実現してください。

詳しくは

直通電話 03-5338-9810

もしくは [supporter.jp@greenpeace.org](mailto:supporter.jp@greenpeace.org)

グリーンピース 寄付

検索



© Kazuya Hokari / Greenpeace

# GREENPEACE

国際環境NGO グリーンピース・ジャパン

〒160-0023 東京都新宿区西新宿8-13-11 NFビル2F

Tel. 03-5338-9800 Fax. 03-5338-9817

[www.greenpeace.org/japan](http://www.greenpeace.org/japan)